



関西岩手県人会報 第13号

2009年6月10日発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900

大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内

Tel & Fax 06-6344-5969

発行代表者 鎌田 龍児

編集代表者 松坂 定徳

新役員決まる 平成21年度総会

関西岩手県人会の「平成21年度の総会」が去る5月23日(土)、大阪駅前第1ビル12階、神仙閣において11時から開催された。

開会は松坂副会長の司会挨拶に始まり、春の選抜高校野球大会では、花巻東高校の決勝進出という岩手県勢として初めての快挙であり、岩手県内でも関西岩手県人会でも最高に盛り上がりを見せた大会であり、今年の夏の大会でも大いに期待できる。とした上で、新型インフルエンザの流行の真只中でもあり、多少湿った雰囲気もあったが、事務局が作成した[平成21年度 総会次第]に従って議事の進行がなされた。

1、開会 2、会長挨拶 3、議長選出 4、議事

第1号議案 会則の一部改訂の件、第2号議案 平成20年度事業報告・平成20年度収支決算(案)の承認並びに監査報告の件、第3号議案 平成21年度事業計画(案)並びに平成21年度収支予算(案)の承認の件、第4号議案 役員選任の件、第5号議案 その他の件 5、新会長挨拶 5、)会の順で進行された。

2、議長挨拶は「別記」。3、議長選出は慣例に従い会長である堯会長が選出され、議事の上程、進行を行った。

第1号議案が上程され、議長は議案内容についての説明を求め、松坂副会長は次の通り説明した。「現在は、1月の新春懇親会と5月の総会と半年以内に2回の会員集会を開催しているために、2回目の総会の出席者が少なく、これを1月に纏めて「新春懇親会」と「総会」を一度に開催してはどうなのかと役員会で提案され、検討した結果、1月に総会を開催するには、現在3月末日を期末締切りにしているのを、12月末日に期末締切りに会期の変更を行う必要があることから、会則の改訂を行い、第18条に「会計年度」を次の通り追記することにしたい、と述べた。『この会の会計年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わるものとする。』と明記する必要があることを説明した。

また、第6条の役員人数について、現在の「監事は2名」となっているが、事情により1名になる可能性もあるので、この機会に『監事2名以内』と改訂したい。」と説明した。この件に

付き議長から会場に賛否を諮問したところ「異議なし」「賛成」の声により第1号議案を可決した。

第2号議案が上程され、議長は熊谷事務局長に平成20年度の事業報告と同年度の収支決算案の内容の説明を依頼し、熊谷事務局長から年月日毎に書き上げた事業報告書の項目を順次読み上げて説明し、引き続いて20年度の収支決算案を説明した。議長は会場に質問を求めた後に、松本監事に監査報告を要請し、松本泰州氏が監事を代表して報告した。「5月1日監事の鈴木政人氏と共に関係書類を監査した結果、正確且つ適正に記載されている」と報告した。議長は第2号議案について拍手で賛意を求めたところ満場一致で可決された。

第3号議案が上程され、議長は熊谷事務局長に平成21年度の事業計画案と同年度の予算案の説明を求められ、熊谷事務局長は21年度の事業計画案と同年度の予算案を内部事情を絡めて説明した。議長は計画案と予算案の承認を求めたところ異議なく承認された。

第4号議案が上程され、議長は役員任期は本日の総会終了を以て任期満了となるので、今後の2年間(平成21年度・22年度)を担当される役員候補を役員会で選考したので、松坂副会長から選考過程と役職・氏名の紹介を求めた。松坂副会長は選考過程と人事を次の通り発表した。役員会で決めている「三役会議規程」「役員選考委員会規程」に従い、現役員から次期役員候補者の推薦をいただき、選考委員会で次期役員候補者を選考し、更に役員会で審査承認を戴いた方々を下記の通り紹介し、議長は紹介した方々に今後の2年間の運営をお願いしたい。と承認を求めたところ、全会一致で承認された。選任された方々は下記の通りです。(敬称略)

会長＝鎌田龍児。副会長＝熊谷克巳(事務局長兼任)・藤井勝・藤原照雄・松坂定徳。常任幹事＝池田希和夫・加藤文雄(事務局兼任)・工藤国雄・堯律子・深田稔・溝井まさ・八幡勝栄。幹事＝小山綾子・金野衛・濱本昌範。

職指定幹事＝薄衣明(岩手めんこいテレビ)・菅野智(テレビ岩手)・佐々木勇(IBC)・吉田真二(岩手県大阪事務所)。

監事＝鈴木政人・和賀亮太郎。顧問＝泉秀二・柏山喬・佐々木登。

第4号議案が上程され、会場での質問等を受けたが会員減少傾向に対する提案がありました。特記する議題もなく、会員各位の協力により総会議事は全て終了し、最後に鎌田龍児新会長の挨拶を受けて総会を終了した。

引き続きテーブルに中華料理が並べられ「懇親会が開催」された。先ず鎌田会長の挨拶に始まり、吉田県事務所長から達増岩手県知事の祝辞「別掲載」の代読があり、藤原副会長の乾杯の音頭で会場が盛り上がりを見せ、食事と歓談で賑わいの中で希望者のカラオケタイムとなった。予定時間となり記念写真の撮影の後、中締めめの挨拶が藤井副会長から述べられ、平成21年度の総会と懇親会が終了した。

「総会出席者＝敬称略」

青柳信雄、池田希和夫、伊藤昭、今北久美子、奥玉栄三、柏山喬、加藤文雄、鎌田龍児、川村巖、神田久美枝、工藤国雄、熊谷克巳、小瀬川操一、小林繁、金野衛、境伝、佐藤隆、佐藤五郎、菅原文雄、鈴木政人、堯律子、外浦記代美、野館桃鹿、平野良夫、深田稔、藤井勝、藤原照雄、福島敏夫、松坂定徳、松本泰州、山本総、山本幸子、村上忠夫、八重樫善幸、八幡勝栄、吉田志郎、吉田真二、大釜範之、奥村昭吾

以上の記録及び報告(編集局)

堯 律子議長挨拶

皆様、こんにちは。会長の堯でございます。

本日はお忙しい中を、多数ご出席いただき有難うございます。

昨年は、大きな地震のために、ふるさと岩手では大きな被害を出しましたが私ども県人会としても、出来る限りの支援に取り組みました。

その一方で、明るい話題は、春のセンバツに出場した花巻東高等学校の活躍でした。惜しくも決勝で敗れはしましたが、1回戦で敗退が続いていた岩手県の高校野球の歴史を塗り替える快挙でした。他府県からの留学生のいない、岩手出身の選手だけのチームが、甲子園で見せてくれた健闘は、応援の私ども県人会の会員にも、大きな力と感動を与えてくれました。野球だけでなく、人間としても一流であれという監督さんの教育が行き届いた本当に素晴らしいチームだったと思います。また、夏の甲子園が楽しみになりました。

また、9月に行われた「北東会ゴルフ大会」では、桐友会の皆さんを中心にした選手の大活躍で、見事、優勝いたしました。大会の賞品には、岩手県の産品を差し上げましたが、こちらも大好評でした。

この他、「アテルイ・モレの会」、「関西宮沢賢治の会」「桐の会」等も活発な活動で県人会の活動を盛り上げていただきました。改めてお祝いとお礼を申し上げます。

このように県人会が、しっかりとした足どりをきざんでいることを、大変嬉しく思っています。

ところで、私は本日の総会を最後に会長を辞することになりました。明るく、オープンで和やかな県人会にと努力してま

いりましたが、2期4年にわたって支えていただき、役目を果たす事が出来ましたことに、心からお礼を申し上げ、ご挨拶と致します。ありがとうございました。

達増知事祝辞

平成21年度関西岩手県人会懇親会が開催される当たり、お祝いを申し上げます。

皆様には、全国高校ラグビー選手権などの応援をはじめ、あらゆる分野における県人の活動にご支援、ご協力を賜り、県民を代表して厚く御礼申し上げます。

昨年は、平泉の世界遺産登録延期、2度にわたる大地震をはじめとし、多事多難な1年でしたが、皆様の大きな応援をいただきながら、県民一丸となって災害復旧・復興に取り組むとともに、2年後の世界遺産登録を目指して、元気な岩手を全国に発信する「がんばろう！岩手」の運動を展開しております。

このような中、先の選抜高校野球大会において、花巻東高等学校が準優勝という素晴らしい成績を収めてくれました。甲子園での準優勝は岩手県勢初の快挙であり、正に、子供たちが「がんばろう！岩手」を体現し、岩手県民に勇気と希望を与えてくれたものと大変嬉しく思っております。

一方、世界的な経済危機、厳しさを増す雇用環境、深刻な医師不足など、県民生活は依然として様々な危機に直面していると認識しております。県ではこうした状況の下、すべての県民が共に生きる「希望王国岩手」の確立に向けて、全力を挙げて取り組んでいるところであります。

まず厳しい雇用環境にしっかり対応するため、「岩手県緊急雇用対策本部」の立ち上げ、「雇用対策・労働室」の設置により、関係部局が一体となった総合的な雇用対策を強力に推進しております。また、深刻化する医師不足に対応し、県民の生命を守るため、「県立病院等の新しい経営計画」を推進し、医師の負担を少しでも軽減し、質の高い医療を継続して提供して参りたいと考えております。

危機的な状況は、まだ当分続いていくと予想されますが、私は「いわて希望創造プラン」に掲げる施策を着実に推進していく事が、この危機を脱し、未来の希望につながっていくものと確信しております。

さて、先月の9日に、いわて花巻空港の新ターミナルビルが完成いたしました。皆様にも、是非、緑深まる岩手へお出で下さるようお願い致します。また、定住交流促進のため、ふるさとへお帰りになるご希望をお持ちの方へのお声かけなど、岩手のPRになお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。終わりに、関西岩手県人会のますますの発展と、ご参会の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



達増知事の祝辞を披露する吉田所長



全力で取り組みます！

会長就任に当たり

鎌田龍児

堯律子会長の後を受けて、はからずも会長を拝命いたしました。総会の席上でも申し上げましたが、大変荷が重く、戸惑っておりますが、関西在住の皆さんと、ふるさと岩手のために何かお役に立てるとすれば、多分最後の機会ではないかと思い、重責ではありますがお引き受けすることに致しました。役員の方々を力合せて、県人会のために、微力ながら全力を尽くして参ります。ふるさと岩手は、会員の皆さんの心の中に様々な形で色濃く存在し、それを意識するしないを問わず、一人一人の生き方に影を落としていると思います。例えば、風にざわめく木々の葉音に、あの「風の又三郎」の冒頭の書き出しの部分の思い起こし、時空を越えてふるさとの原風景と二重写しとなる・・・誰も声高に言わないけれども、そんなセンチメントを共有している関西の地にある県人の皆さんが、遠慮や銜いなど無く、和やかに集える会にしたいと思っています。ところで、県人会は会員の方々の年会費によって運営されているのはご承知の通りですが、納入率は残念ながらいま一つです。意義ある活動を行っていくためにもご協力をお願い申し上げる次第です。またふるさと岩手と県人会、関西を結ぶ情報広場として、ネットに関西岩手県人会のホームページを立ち上げることを検討しています。このホームページを通じて岩手から関西へ、関西から岩手へ生きた情報が行き交い、岩手のPRに資するとともに、会員間のふれあいと若い世代を含めた会員増に繋がればと思っています。終わりに、会員皆様方のご健勝をお祈り申し上げますとともに、新春懇親会には元気な姿を見せてくださいますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

花巻東準優勝！

岩手の高校野球史に金字塔！

甲子園最高成績に感動の輪広がる！

—第81回選抜高校野球大会—

初出場ながら、菊池雄星投手の胸のすく快投、ピンチを救った数々のファインプレーと固い守備、逆転劇を演出したバッティング、3 拍子揃った花巻東の健闘は実に見事だった。甲子園に応援に駆けつけた(引き寄せられた)県人会応援団は、選手の真剣なプレーに熱い感動をもらった。明治神宮大会ベスト4の鶴川(北海道)を5-0で降した1 回戦は、大会屈指の左腕菊池(雄星)が8 回2死まで走者を一人も許さない完全試合ペース。スコアボードの「153キロ」の表示には、海鳴りのようなどよめきが起こった。最終的に2 安打を許したものの、12 奪三振の力投は次の試合での活躍を予感させた。



盛り上がる県人会応援団

2 回戦は明豊(大分)を4-0で降し、県勢25 年ぶりのベスト8 進出。準々決勝では南陽工(山口)に5-3で逆転勝ち、第56 回大会の大船渡以来の4 強入りを果たした。準決勝では宮城の利府に5-2で逆転勝ち、甲子園春夏通じて岩手県勢として初の決勝進出を果たした。4 月2 日、決勝戦を迎えた甲子園球場は風が強く一時小雨がぱらついたものの、まずまずのコンディション。花巻東は大会屈指の右腕・今村を擁する清峰(長崎)に挑んだ。身体が悲鳴をあげる中で菊池(雄)も懸命に投げ、予想通りの投手戦となったが、7 回2 死1 塁から中越え2 塁打を浴び1 点を失った。花巻東は7 回まで2 安打と今村に押さえ込まれ、2 塁にランナーを進める事が出来なかった。この試合に限って、守備のほころびや走塁ミスなど、花巻東らしからぬプレーがあり、自ら流れを途切れさせてしまったのは惜まれるが、他府県からの“野球留学生”がいない、純岩手の選手達が完成度の高い試合を見

せてくれたことに改めて賞賛を贈りたい。特に「ベンチに引き揚げてくる選手をハイタッチで向かえる控えの選手達」「エラーをしても手を上げ結束を確かめ合う投手と野手」「一つ一つのプレーにカバーに動く各選手」「チャンスの時同様に、ピンチの時にも力強く選手を励ます応援」など、それぞれのシーンが熱く脳裏に焼きついている。岩手県の高校野球史上、新たな1ページを刻んだ花巻東のみなさんおめでとう。そして有難う！夏また甲子園に帰ってきて下さい。県人会は待っています。

編集部

「旧岩手県人会」の新聞記事発見！

元岩手日報社大阪支社長の藤村政道氏(盛岡市在住)から大正時代にも「在阪の岩手県人会」が存在した新聞記事を見つけたから参考に新聞記事のコピーを送りますとの案内を頂きました。新聞は「岩手日報」。日付けは「大正12年11月14日」です。ここにその全文を紹介致しますが、漢字は旧漢字にふりがな付きのため当用漢字に変え、また、最初から最後まで句読点が一箇所もありませんのでご判読下さい。記事の中にある先輩方のお名前や大日生命保険株式会社など、ご存知の方が居られましたら編集局までお知らせ頂けましたら、追報したいと思います。

「在阪本縣人会」

九日在阪岩手県人会を大阪市北区曾根岸静観楼に開いたが来会者中には相羽恒次中館梅次郎氏等の元老其他二十七名にて席定まるや発起人を代表して上田常記氏の挨拶あり宴半ばに各自自己紹介をなせしが来会者中には平澤眞氏勤務の大日生命保険株式会社社員五名上田常記氏勤務の藤田銀行員四名横濱免氏主宰建築事務所関係者五名の外後醍院正六氏川口秀基氏加藤甚七氏千田民衛氏板澤政治氏鶴飼悦弥氏等各階級交わりて各々関係事業の広告するのもありしが就中医学士加藤甚七氏は従来京都医科大学教授なりしが今度当地へ氏独特の注射療法を以って全治せしむべき痔専門の病院を開業した際とて全病に関する学術的講演があった後一同歡を尽し散会したのは九時過ぎ(東電)

松坂記

奥州会総会開催される

関西奥州会第1回定期総会並びに懇親会が、5月30日、京都聖護院～御殿荘で開催されました。総会は午前11時、森口隆次会長が議長となり、20年度事業報告と21年度事業計画案、会計報告などが行われ総会を終了しましたが、21年度の事業計画では、9月中旬ごろ奥州市表敬訪問の大きな計画が発表されました。懇親会は佐藤耕吉代表幹事の司会で始まり、最初に奥州市の岩井憲夫副市長の来賓祝辞がありました。岩井副市長は、平泉世界遺産登録が見送られたのは非常に残念だが、2年後の再申請に望みを託している。また長期計画として、物理化学研究所施設の建設が、奥州市を中心に計画されていると語りました。京都清水寺加藤真吾学芸員と、穀田恵二衆議院議員の祝辞に続いて、堯律子奥州市大使による乾杯の音頭で祝宴が始まり、

久しぶりの再会とふるさとの話に盛り上がりました。その後、御殿荘と佐藤代表幹事の特別の計らいで、光格天皇が、天明8年暮れ、都で起きた大火災の難から逃れ一時避難して住まわれた、聖護院～醉雪亭を、御殿荘・安達様の説明で見学する事が出来ました。その後、自由参加となり、浄土宗大本山黒谷金戒光明寺を、森口会長の説明を交えて見学を行い、現地解散しました。

加藤文雄記

前アテルイを顕彰する会々長

藤波隆夫先生 逝去

去る5月28日「アテルイを顕彰する会」前会長の藤波隆夫先生(84歳)は心不全のため前沢市内の病院でお亡くなりになりました。藤波会長は地元水沢市で清水寺に「阿弭流為 母禮之碑」を建立するため、「関西アテルイ・モレの会」初代会長の高橋敏男氏を物心両面で支えた人。葬儀は自宅の黒石寺で30日行われました。喪主は長女の洋香(ようこう)さん。地域歴史文化の普及等に努め、01年には内閣総理大臣表彰も受けました。ご冥福をお祈り申し上げます。

松坂記

事務局 掲 示 板

去る5月23日に総会が終了し、12月31日までの新年度が始まったが、この短い9か月間とはいえ我々の県人会活動は重要であると認識している。まず、会員皆様のご期待に沿わなければならない。これまでの活動は郷里岩手の物産展案内、岩手代表の高校野球やラグビーの応援などが中心であった。今年もこれに加えて会員親睦のための近隣へのバス研修旅行等を予定しているが、近年参加者が少ないのが何ともさびしい。事務局が皆様に魅力のあるプランを提示できないことによるとも考えられる。よって、これらの行事の企画・立案を含めて事務局を応援していただける人を求めています。資格等いりません。TELにてお申し出願います。(TEL 06-6344-5969 水曜日のみ)

新会員(敬称略)

善国高豊(北上市)

〒655-0006 神戸市垂水区本多聞6丁目21-6

小林繁(宮古市)

〒554-0051 大阪市此花区西島1丁目5-1-911

中西文枝(花巻市)

〒669-2325 兵庫県篠山市河原町189

松浦勝美(金ヶ崎町)

〒565-0872 吹田市上山田6-8-416

菊池茂明(一関市)

〒558-0011 大阪市住吉区苅田3-15-9

編集後記

写真が少なく堅苦しい紙面になってしまいました。連載中の気仙の伝承物語「鮭の大助」は次号に掲載します。